



TITLE:

# Real homogeneous polynomialsの 零点集合とその係数空間について ( $C^\infty$ 写像と関連分野)

AUTHOR(S):

小池, 敏司

---

CITATION:

小池, 敏司. Real homogeneous polynomialsの零点集合とその係数空間について( $C^\infty$ 写像と関連分野). 数理解析研究所講究録 1983, 493: 39-47

ISSUE DATE:

1983-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/103554>

RIGHT:

## Real homogeneous polynomials の零点集合 とその係数空間について

京大理 小池 敏司 (Satoshi Koike)

### §1. 結果

$H_j: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}$  を  $r_j (\geq 1)$  次 real homogeneous polynomial とする ( $j = 1, \dots, p$ )。この時、 $\mathbb{R}^n$  の中で  $H_1^{-1}(0) \cap \dots \cap H_p^{-1}(0)$  の topological type を考える。homogeneous polynomials の零点集合は  $0 \in \mathbb{R}^n$  を頂点とする cone をなすので、 $0 \in \mathbb{R}^n$  の周りの local situation で決まる。ここでの目的は、上の性質に注目しながら degree  $r_1, \dots, r_p$  を fix した real homogeneous polynomials の係数空間が、その零点集合の topological type によって、どのように分割されるかを調べる事である。 $r_0 = \max_{1 \leq i \leq p} \{r_i\}$  とおく。 $r_0 = 1$  の時その topological type は、mapping  $H = (H_1, \dots, H_p)$  の rank で容易にわかるので、 $r_0 > 1$  の場合が我々の主な興味の対象である。

$E_{[S]}(n, p)$  を  $(\mathbb{R}^n, 0) \rightarrow (\mathbb{R}^p, 0)$  の  $C^S$  map-germ の作る vector space、 $J^r(n, p)$  を  $E_{[S]}(n, p)$  ( $S \geq r$ ) の元である

map-germ の  $r$ -jet の集合、 $j^r(f)$  は mapping  $f$  の  $0$  での  $r$ -jet とする。更に次のように記号を定める；

$$J^{(r_1, \dots, r_p)}(n, p) = J^{r_1}(n, 1) \times \dots \times J^{r_p}(n, 1),$$

$$\mathcal{E}_{[s_1, \dots, s_p]}(n, p) = \mathcal{E}_{[s_1]}(n, 1) \times \dots \times \mathcal{E}_{[s_p]}(n, 1),$$

$$H(r_1, \dots, r_p) = \left\{ w = (w_1, \dots, w_p) \in J^{(r_1, \dots, r_p)}(n, p) \mid \right. \\ \left. w_j : r_j\text{-th homogeneous polynomial } (1 \leq j \leq p) \right\}.$$

この時、 $H(r_1, \dots, r_p)$  は自然にある Euclidian space  $\mathbb{R}^N$  と同一視される。 $\mathbb{R}^N$  の元  $a$  に対し、その対応する  $H(r_1, \dots, r_p)$  の元を  $H_a(x)$  で表わす事にする。

定義. (1)  $(r_1, \dots, r_p)$ -jet  $w = (w_1, \dots, w_p) \in J^{(r_1, \dots, r_p)}(n, p)$  が  $v$ -sufficient in  $\mathcal{E}_{[s_1, \dots, s_p]}(n, p)$  とは、各  $j$  ( $1 \leq j \leq p$ ) に対し  $j^{r_j}(f_j) = j^{r_j}(g_j) = w_j$  を満たす任意の  $f = (f_1, \dots, f_p)$ ,  $g = (g_1, \dots, g_p) \in \mathcal{E}_{[s_1, \dots, s_p]}(n, p)$  に対し、 $f_1^{-1}(0) \cap \dots \cap f_p^{-1}(0)$  と  $g_1^{-1}(0) \cap \dots \cap g_p^{-1}(0)$  の  $0 \in \mathbb{R}^n$  での germ が homeomorphic になる時言う。

(2)  $r$ -jet  $w \in J^r(n, p)$  が  $R$ - $C^0$ -sufficient (resp.  $RL$ - $C^0$ -sufficient) in  $\mathcal{E}_{[s]}(n, p)$  とは、 $j^r(f) = j^r(g) = w$  を満たす任意の  $f, g \in \mathcal{E}_{[s]}(n, p)$  に対し、ある local homeomorphism  $\sigma : (\mathbb{R}^n, 0) \longrightarrow (\mathbb{R}^n, 0)$  (resp.  $(\mathbb{R}^p, 0) \longrightarrow (\mathbb{R}^p, 0)$ ) が存在して  $f = g \circ \sigma$  (resp.  $\tau \circ f = g \circ \sigma$ ) が成立する時言う。

(3)  $H, G \in H(r_1, \dots, r_p)$  が 同じ  $v$ -type を持つ と言うのは、ある global homeomorphism  $\sigma: \mathbb{R}^N \rightarrow \mathbb{R}^N$  が存在して  $\sigma(H(0)) = G(0)$  が成立する時言う。

ここで、 $\mathbb{R}^N$  の中の "undesirable set" として、

$$\Sigma^* = \{w \in H(r_1, \dots, r_p) \mid \text{not } v\text{-sufficient in } E_{[w]}(n, p)\}$$

と置く。この時、次の結果を得る。

定理.  $n \geq p$  とする。その時  $\mathbb{R}^N$  は次の性質を満たす disjoint subset  $W_1, \dots, W_a, W_1', \dots, W_b'$  に分解される。

(1) 各  $W_i, W_j'$  は semi-algebraic, connected な analytic manifold である。

(2) 各  $W_i$  は  $\mathbb{R}^N - \Sigma^*$  の connected component であり、 $\Sigma^* = W_1' \cup \dots \cup W_b'$  である。

(3) 各  $W_i, W_j'$  上 " $v$ -class" は unique である。

(4)  $\Sigma^*$  は closed in  $\mathbb{R}^N$ ,  $\dim \Sigma^* < N$  であり、更に  $\Sigma^*$  は、 $0 \in \mathbb{R}^N$  を vertex とする cone である。

注意. (1)  $\Sigma^*$  の定義で、 $H = (H_1, \dots, H_p)$  を  $r_0$ -jet とせず  $(r_1, \dots, r_p)$ -jet と考えた理由;

(i) 各  $j$  に対し、 $H_j$  は  $r_j$ -th homogeneous である。

(ii)  $H_1^{-1}(0) \cap \dots \cap H_p^{-1}(0)$  を mapping  $H = (H_1, \dots, H_p) : \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^p$  の零点集合と思うより、 $p$  個の function  $H_j : \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}$  の零点集合と思う方が自然である。

(2) (i)  $n < p$  の時、同様の結果は面白くない。何故なら任意の  $a \in \mathbb{R}^N - \Sigma^*$  に対し  $H_a^{-1}(0) = \{0\}$  であり、更に  $\text{codim } \Sigma^* \geq 2$  であるから。

(ii)  $n > p$ ,  $r_0 > 1$  の時、 $\mathbb{R}^N - \Sigma^*$  上に現われる  $v$ -class は 2 個以上である。従って  $\text{codim } \Sigma^* = 1$  である。

(3) それ上  $v$ -type が同じであるという  $\mathbb{R}^N$  の connected subset による maximal な分割は、 $\Sigma^*$  に compatible でない；例えば、 $n=2$ ,  $p=1$ ,  $r=3$  の時、ある connected subset  $V \subset \mathbb{R}^N$  が存在して、 $V$  上  $v$ -type は unique で、 $V \cap \Sigma^* \neq \emptyset$ ,  $V \cap (\mathbb{R}^N - \Sigma^*) \neq \emptyset$  である。

(4)  $v$ -type に関する Thom–Varčenko 型定理の応用として、次の事がわかる。 $r_1 = \dots = r_p$  の時、ある proper algebraic set  $V \subset \mathbb{R}^N$  が存在して、 $\mathbb{R}^N - V$  の connected component 上  $v$ -type は unique で、 $\mathbb{R}^N - V$  の各元は  $v$ -sufficient である。  
(T. C. Kuo [7], R. Thom [9], A. N. Varčenko [10])

定理の証明には次に述べる Proposition, homogeneous polynomial mapping の場合の  $v$ -sufficiency に関する結果が必要である。

Proposition の結果に、注意 (4) で述べた 3 人のやり方を適用して、いく事により定理が得られる。

Proposition.  $n \geq p$  とし、 $H = (H_1, \dots, H_p)$ ,  $H_j$ :  $r_j$ -th homogeneous ( $1 \leq j \leq p$ ) とする。この時、次の条件は同値である。

(a)  $H^{-1}(0) \cap \Sigma H = \{0\}$  ( $r_0 = 1$  の時は  $\emptyset$ )、但し、 $\Sigma H$  は mapping  $H: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^p$  の singular point set である。

(b: s)  $H \in J^{r_0}(n, p)$  は、 $V$ -sufficient in  $\mathcal{E}_{[s]}(n, p)$  である。

( $s = r_0, r_0+1, \dots, \infty, \omega$ )

(c)  $H \in J^{(r_1, \dots, r_p)}(n, p)$  は、 $V$ -sufficient in  $\mathcal{E}_{[r_1+1, \dots, r_p+1]}(n, p)$  である。

(d)  $H \in J^{(r_1, \dots, r_p)}(n, p)$  は、 $V$ -sufficient in  $\mathcal{E}_{[\omega]}(n, p)$  である。

## § 2. 考察と問題

### (I) homogeneous case

$p = 1$  の時、多項式の位相型に関する福田の定理 ([3])、孤立特異点を持つ family に関する King の結果 ([5] or [1]) を適用する事により、“ $V$ -type” を “local  $R$ - $C^0$ -type” に変えても § 1 の定理はそのまゝ成立する。

問題.  $p \geq 2$ ,  $r_1 = \dots = r_p$  の時、定理の "v-type" を "local RL- $C^\infty$ -type" に変えても (但し、 $w_j'$  の存在は除く)、そのまゝ成立するか？

予想.  $w \in J^r(n, p)$ 、但し、 $w_j$ :  $r$ -th homogeneous ( $1 \leq j \leq p$ ) とする。この時、次は同値である。

$w$ : RL- $C^\infty$  sufficient  $\Leftrightarrow w$ : topologically finitely-determined  
(i.e.  $\exists l \geq r$  s.t.  $w$ : RL- $C^\infty$ -sufficient as  $l$ -jet.)

### (III) Thom-Vařcenko 型定理

$J^r(n, p) \cap \Sigma_r^* = \{ \text{not finitely v-determined} \}$

$J^r(n, p) \cap \Sigma_r = \{ \text{not v-sufficient} \}$  とおく。

定義より、 $\Sigma_r \neq \Sigma_r^*$  で、どちらも semi-algebraic subset ( $[2], [7]$ ) である。  $s > r$  とし、 $\pi_s: J^s(n, p) \rightarrow J^r(n, p)$  を canonical projection とする。この時、 $J^r(n, p)$ ,  $J^s(n, p)$  を次の性質を持つように分割するのは難しくない。

$$J^s(n, p) = \underbrace{U_1' \cup \dots \cup U_{l_s}'}_{\uparrow} \cup \underbrace{V_1' \cup \dots \cup V_{m_s}'}_{\uparrow} \cup \underbrace{W_1' \cup \dots \cup W_{n_s}'}_{\uparrow} \text{ (disjoint)}$$

$$J^r(n, p) = \underbrace{U_1 \cup \dots \cup U_{l_r}}_{\uparrow} \cup \underbrace{V_1 \cup \dots \cup V_{m_r}}_{\uparrow} \cup \underbrace{W_1 \cup \dots \cup W_{n_r}}_{\uparrow} \text{ (disjoint)}$$

(1) 各  $U_i, V_j, W_k, U'_i, V'_j, W'_k$  は semi-algebraic, connected な analytic manifold である。

(2)  $J^S(n, p)$  の各 manifold は、 $J^r(n, p)$  のある manifold の上に onto に写る (但し、上の矢印と反対方向の向きにのみ写る)。

(3) 各  $U_i, V_j, W_k, U'_i, V'_j, W'_k$  上 (local)  $v$ -class は、unique である。

(4)  $\Sigma_r^* = W_1 \cup \dots \cup W_{n_r}, \Sigma_r - \Sigma_r^* = V_1 \cup \dots \cup V_{m_r}$   
 $\Sigma_s^* = W'_1 \cup \dots \cup W'_{n_s}, \Sigma_s - \Sigma_s^* = V'_1 \cup \dots \cup V'_{m_s}$  である。

§ 1 注意 (4) で述べた variety の Thom-Varičenko 型定理は、上の図式における "選択" の問題と言える;  $w \in J^r(n, p)$ ,  $s = r+1$  の時、 $w$  を  $\pi_{r+1}^{-1}$  で  $J^{r+1}(n, p)$  に持ちあげると、選択する  $V'_1 \cup \dots \cup V'_{m_s} \cup W_1 \cup \dots \cup W_{n_s}$  のえか、 $U'_1 \cup \dots \cup U'_{l_s}$  のえと比べて非常に少ない事を示している i.e.  $\pi_{r+1}^{-1}(w) \cap \exists V$  proper algebraic set s.t.  $V \subset \pi_{r+1}^{-1}(w) \cap (V'_1 \cup \dots \cup V'_{m_s} \cup W_1 \cup \dots \cup W_{n_s})$ .

$p=1$  の時には、上の結果は  $v$ -type を  $R$ - $(0$ -type に変えても成立する。Thom-Varičenko 型定理については先に述べた通りであるが、福田の定理 ([3]) は図式の横関係を表わしている事がわかる。更に [6] で構成した example ( $R$ - $(0$ -sufficient でないが、その realization の  $R$ - $(0$ -type は有限個) は、 $w \in V_j$



が、 $\pi_{r+1}^{-1}$  によって  $R$ - $C^0$ -type の異なる  $v_i'$  を選択したと言える。

いわゆる Thom-Vařenko 定理 (mapping の  $RL$ - $C^0$ -type のもの) は、多くの人達によって研究されている (R. Thom [9], A. N. Vařenko [11], T. Fukuda [4], A. du Plessis [8])。最後に、非常に "虫のよい" 問題を掲げておく。

問題.  $p \geq 2$  の時、 $v$ -type を  $RL$ - $C^0$ -type に変えても、同じ図式が言えるか (但し、 $V_j, W_k$  上では (3) の性質は除く事にする) ?

## REFERENCES

1. J. Bochnak and W. Kucharz : Sur les germes d'applications différentiables à singularités isolées, Trans. Amer. Math. Soc. 252 (1979), 115-131.
2. J. Bochnak and T. C. Kuo : Rigid and finitely V-determined germs of  $C^\infty$  mappings, Canad. J. Math. 25(4) (1973), 417-424.
3. T. Fukuda : Types topologiques des polynômes, Publ. Math. I.H.E.S. 46 (1976), 87-106.
4. T. Fukuda : Local topological properties of differentiable mappings. I, Invent. Math. 65 (1981), 227-250.
5. H. King : Topological type of families of singularities.
6. S. Koike and W. Kucharz : Sur les réalisations de jets non suffisants, C. R. Acad. Sc. Paris, t.288 (26 février 1979), Série A 457-459.
7. T. C. Kuo : Characterizations of v-sufficiency of jets, Topology 11 (1972), 115-131.
8. A. du Plessis : On the genericity of topologically finitely-determined map-germs, Topology 21, No. 2 (1982), 131-156.
9. R. Thom : Local topological properties of differentiable mappings, Colloq. on differential analysis, Oxford Univ. Press (1964), 191-202.
10. A. N. Varčenko : Theorems on the topological equisingularity of families of algebraic varieties and families of polynomial mappings, Izv. Akad. Nauk SSSR Ser. Mat. 36 (1972), 957-1019 = Math. USSR Izv. 6 (1972), 949-1008.
11. A. N. Varčenko : Local topological properties of differentiable mappings, Izv. Akad. Nauk SSSR Ser. Mat. 38 (1974) = Math. USSR Izv. 8 (1974), 1033-1082.